

さっぽろ夏まつり - すすきの祭り

8月の最初の週末の3日間、夕方から夜にかけて「すすきの祭り」が開催されます。この間、道路は通行止めになり、屋台が立ち並びます。主なイベントとしては、パレードや踊りなどが行われ、最終日には各地の神輿の行列が賑やかに行われます。

道内各地から集まったチームが一堂に会し、太鼓の音に包まれて祭りが始まります。太鼓の音に合わせて、江戸時代（1603-1868年）の花魁に扮した女性たちが、精巧でカラフルな時代衣装を身にまとい、「おいらん行列」が始まります。

2日目は、国内外のチームによる踊りが次々と通りを練り歩きます。この日は、豪華な衣装に身を包んだ大所帯の踊り手たちによる「よさこい」競演の日です。よさこいは、1950年代に徳島県の伝統的な阿波踊りを現代風にアレンジしたもので、エネルギッシュな動きと振り付けが特徴です。

また、2日目には、新たに加わったブラジルのカーニバルをテーマにした「サンバカーニバルパレード」が開催されます。ブラジルのカーニバルスピリットを身にまとったダンサーたちが、すすきの通りを練り歩き、近くの大通ビアガーデンのステージでパフォーマンスを披露します。このパレードの初年度となる2019年は、13チーム、635人が参加しました。

最終日には、数百人の人々が神輿を担いで札幌市内を練り歩き、すすきのの入り口に集まります。1000人もの人が7つの神輿を担ぐ必要があります。最大のものは重さ1.5トン、担ぐのに100人が必要です。神輿を取り囲み、神輿と一緒に移動する集団の中には、最初の担ぎ手の代わりとなる人たちがいて、道内各地から参加するために人が集まってきます。